

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 3 6	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳) Impact of antisocial lifestyle on health 反社会的な生活習慣が健康に与える影響	
執筆者 Shepherd J, Farrington D, Potts J	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Journal of Public Health 2004; 26:347-352.	
キーワード 反社会的な生活習慣、 疾病、外傷、縦断研究	
要 旨 <p>背景：反社会的な生活習慣は時として健康状態に悪影響を及ぼす可能性がある。反社会的な生活習慣と特定の健康状態との関係については調査されているが、健康状態全体との関連についての知見は乏しい。これは、怒りの感情と反社会的な生活習慣・外傷・疾病との関連についての調査が縦断的に行われてこなかったことが一因となっている。</p> <p>方法：非行発生についてのケンブリッジ縦断研究 (Cambridge Study of Delinquent Development : CSDD)において、外傷や疾病の情報を縦断的に収集した。これらの情報を Read 臨床コード (第 3.1 版) にて登録し分類した。(1) 犯罪歴と外傷との関連、(2) 16—18 歳の時期における非行や外傷の状況の 27-32 歳時までの持続 (3) 16—18 歳の時期における反社会的な生活習慣と 27-32 歳時の外傷の状態との関連、(4) 16—18 歳の時期における反社会的な生活習慣があり疾病が少なかった状態が 27-32 歳時には逆転して反社会的な生活習慣が抑制されて疾病が増加しているかどうか、の 4 点について調べた。</p> <p>結果：16-18 歳時における怒りの感情の予測因子は、27-32 歳時における傷害、循環器疾患、精神疾患を予測した。16-18 歳時における非行は交通外傷、家庭内での外傷、自傷と関連していたが、疾病および入院は少なかった。18 歳時の反社会的な生活習慣のうち、32 歳時の疾病・外傷に最も強く関連していた要因は、飲酒運転、飲酒後の暴力事件、安易な性交渉、多量喫煙であった。16-18 歳時における多量飲酒習慣は、感染症が少なく、臓器障害が少ないという関係にあったが、27-32 歳時においてもそれらの関連は維持されていた。16-18 歳時および 27-32 歳時に共通してみられたのは、犯罪歴、多量飲酒、仕事が得にくい状態と傷害との関連、および犯罪歴があると器質的疾患が少ないという関連であった。</p> <p>結論：反社会的な生活習慣は、傷害と精神疾患に 32 歳時まで関連していたが、臓器障害患者は少なかった。16-18 歳時における多量飲酒は、総じてその後の疾病が少なく、感染症も少なかった。これらの関連が逆であった知見は、さらなる検討が必要である。</p>	